

釋迦牟尼如來像法滅盡之記

此ノ書卷首ニ釋迦牟尼如來像法滅盡之記ト題シ、同行下部ニ、國大德三藏法師沙門法成譯ト記シ、卷尾ニハ釋迦牟尼如來像法滅盡因緣一卷ト記セリ。法成ハ吐蕃ノ人、題記ノ下、國字ノ上ニハ大番蕃二字ノ存スベキモノナルコト、之ヲ本書活字本收ムル所ノ薩婆多宗五事論ノ卷首ニ徵スルモ疑無シ。甘珠爾中ノ金光明經以下數篇ノ譯者トシテ知ラルル Chos-grub ハ此ノ人ニ外ナラザルベシト謂ハル⁽¹⁾。中唐ノ末以來、河隴ノ地吐蕃ニ歸セル時ニ當リ、法成ハ甘州修多寺、沙洲永唐寺等ノ道場ニ在リ、或ハ梵文藏文ノ經典ヲ翻シテ漢文ト爲シ、或ハ漢文ノ經典ヲ譯シテ藏文ト爲シ、傳譯ノ上ニ功ヲ立ツルコト甚ダ多ク、敦煌石室出ダス所ノ漢譯佛典ニシテ、其ノ手ニ成ルヲ知ラル、モノ既ニ十種ニ近シ⁽⁴⁾。然ルニ此等ノ譯述ハ悉ベテ一切藏中ニ收メラレズ、法成ノ名ト功トハ空シク邊土ノ石窟ニ葬ラレタルモノ實ニ一千餘載、今ニシテ初メテ廣ク其ノ業績ヲ傳ヘラル、ニ至レリ。

此ノ書ハロックヒル氏以來屢學者ノ注意ヲ惹ケル丹珠爾中ノ于闐國懸記 (Ti-yul lung-bstan-pa) ノ漢譯ニシテ、寺本氏ノ邦文ニ譯出セル所⁽⁶⁾ト照合スレバ、其ノ第一章ニ當レリ。書中述ブル所ハ于闐第七代ノ王毗左耶訖多 (Vijayakirti) ノ時、一苾芻ガ于闐・疎勒・安息等ノ佛教ノ運命ヲ問ヘルニ對シ、其ノ師羅漢ノ豫言シテ答ヘタルヲ錄セル授記 (Vyākaraṇa) ニシテ、于闐佛教ノ興廢ニ關スル傳説ニ外ナラズ。思フニ卷首及ビ卷末ノ書題ハ此ノ内容ニ因ミテ附シタルニ外ナラザルベシ。此ノ漢譯ハ西藏文ニ基ツケルモノナルコト明ラカナルモ、後者ハ又ロックヒル氏ガ認メテ于闐語或ハチャガタイトルコ語ノ本文ニ據レルモノナルベシト爲シ、ベリオ氏ガ于闐語即チ東方イラン語ヨリ譯出セルモノナラザル可ラズト爲セルモノナリ⁽⁸⁾。